

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	北信地域における里親委託等推進事業
事業主体 (連絡先)	長野県里親支援専門相談員 北信地区連絡会 長野市箱清水3丁目19番2号(事務局)
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実に係る事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	410,266円(うち支援金:328,000円)

事業内容

- 里親制度説明会を中心にオンライン環境を整え、会場に足を運ばなくても参加してもらえるようにする。
- 興味深度別に里親制度に触れる機会を作る。すでに興味がある方にはわかりやすい制度説明会を、興味を持つまでに至らない方には親子で楽しめるイベントの開催し、その中で昨年度製作した動画を上映することで、里親制度を知るきっかけを作る。
- 若者や地域住民、公的機関の職員等色々な方に制度説明をする機会を作り、制度が広く世間に知られるよう働きかける。
- 地元フリーペーパーや回覧板などで説明会やイベントの告知を行い、より多くの方に制度を知るきっかけを作る。

事業効果

- オンライン環境が整備されたことで、会場に来ることが難しい希望者にも参加してもらうことができた。多くの人に参加してもらい、児童相談所に寄せられた登録の相談等の件数の約3割が当会の活動経由となっている。
- 長野市内の各大学で制度説明をする機会を得て多くの学生に聞いてもらうことができた。これにより制度理解の他に予期せぬ妊娠などの際にも選択肢が広がることを知ってもらえた。また市役所職員にも研修したことにより窓口対応等で役立っている。
- 地元フリーペーパーや回覧板を活用してイベントや制度説明会の告知をすることで、多くの方に制度があるということを知ってもらうことができた。

今後の取り組み

- 今年度は昨年度製作した動画を大いに活用しながら興味深度に合わせて里親制度に触れてもらう説明会やイベントを行ってきた。またコロナ禍にできるだけ左右されず、参加者が可能な環境で制度を理解してもらうこと、できるだけ多くの方に里親制度があるということを知ってもらうこともできた。今年度の活動は工夫した成果が種々のアンケートや児童相談所につながった件数などで出ているので、来年度はその広報の方法を一段と工夫し、より広く世間に里親制度が広がることを目標としたい。
- 今年度の活動に一層の工夫を加えながら今年度とは違った手法で広報啓発活動をするとともに、既に制度に興味がある方に向け、それをより深めてもらうにはどのような働きかけが必要かを熟慮し、3年目の【ジャンプ】にふさわしい活動を計画していきたいと考えている。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【キッズヨガ風景】
【目標・ねらい】

- ① 制度説明会の際のオンライン環境の整備をすることで制度説明を聞く機会を増やす
- ② 今まで制度に触れる機会がなかった人をターゲットに、回覧板やフリーペーパーでの制度説明会やイベントの開催告知をし、多くの人に里親制度に触れる機会を作る

※自己評価【 A 】

- 【理由】
- ・オンラインも併用することで来場できない参加希望者のニーズに応えることができた。
 - ・4種のイベントの参加者にもイベントを楽しみながら制度に触れてもらえ、好評だった。
 - ・様々な手法で多くの人に制度の説明や動画を観てもらうことで里親制度について知るきっかけを作ることができた。

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	生鮮&冷凍フードロス削減とフードパントリー活性化
事業主体 (連絡先)	信州こども食堂印 SDGs プロジェクト 長野市南千歳 2-15-3 トミノビル 202
事業区分	(2)保健、医療、福祉の充実
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,714,953 円 (うち支援金 : 4,410,000 円)

事業内容

地域の人たちの助け合いを食料提供を通じてサポート。個人や企業からの寄贈によりフードロスも同時に削減。鮮度保持の冷凍冷蔵大型コンテナで寄贈食料を備蓄。ネットからの相談受付で SOS を出しやすくする活動。

【活動具体例】

- ① フードドライブ 11 回開催
- ② フードパントリー8 回開催
- ③ 緊急食品支援 6 回開催 (年末&隔月)
- ④ 個別相談受付 (個別配送含む)
- ⑤ チラシとネットのイベント案内を実施
- ⑥ フードロス削減隊 (LINE 公式アカウント登録)
約 170 名が登録

事業効果

昨年に引き続き、冷凍隷属食品を保管できるコンテナの稼働で生鮮冷凍食品の寄贈受入が行えた。一時コンテナ移動で受入出来ない期間があった事と、物価高の影響からか企業などの寄贈が大幅に落ち込み (全国的に)、企業や生産者寄贈は前年比並みだった。しかし、広告効果もあり、個人寄贈は前年対比 105%、個人への食糧支援は前年対比 250%で参加者も増えた。

地域住民が参加できるようボランティア参加者も増え、特に経験を積みたい若者や学生、学校や職場に行けない人なども数多く参加した。ネットを通じた食糧 SOS も約 50 名分ほど受付がされ、心のケアも増加できた。

今後の取り組み

フードロスを削減しながら、より食料が必要な人が「うしろめたさ」を軽減されながら受け取れるように、本年の活動を継続。さらに長野地域として、長野市を中心にフードパントリーを行ってきたが、須高地区でも簡易的なフードドライブとパントリーを開催予定。食料を無償で受取る参加者が、ボランティア活動でイベントを手伝ってくれたりしたので、今後も食支援やボランティア活動を通じて、心のケアを増やしたい。寄贈食料を増やすために、個人参加はもちろん、企業への働きかけ県内外問わず強化しなければならない。フードロス削減隊として LINE 公式アカウントを開設し、現在 170 名が参加しているので、この連絡ツールの登録をさらに増やし、食料無料受取者も寄贈者やボランティアも情報発信で、さらに活動を高めたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【9月25日開催のフードドライブ寄贈品】

【目標・ねらい】

- ① フードロス削減と協力体制構築
- ② 貧困層&予備軍へ食料無料提供
- ③ 参加時の会話等で心のケア
- ④ 住民同士の助け合い

※自己評価【B】

【理由】

活動自体は予測以上の効果も生まれ、広報などで寄贈者も食料受取希望者、さらにボランティアも増えたので良かった。しかし、物価高と途中コンテナの設置場所移動などで食品ストックが不安定だった。